

第 1 回 氷見市総合計画審議会 会議録	
日 時	平成23年1月31日（月）14時00分から15時50分まで
場 所	氷見市役所 第2・第3委員会室
出席者	委員 石出会長、前田副会長、上野與委員、小川委員、川上委員、越田委員、篠崎委員、杉木委員、竹内委員、田嶋委員、田中委員、土居委員、中本委員、七尾委員、西川委員、姫野委員、本川委員、松波委員、松原委員、森委員、森本委員、山岸委員、横山委員（出席23名、欠席6名）
	市 堂故市長 策定委員会（棚瀬副市長、前辻教育長、甲井企画広報室長、東海市民部長、江添建設部長、川田産業部長、山口総務部防災・危機管理監、七瀬会計管理者、野議会事務局長、山崎教育委員会理事・教育次長 欠席：金谷総務部長、有島消防長 代理出席：濱井総務課長・廣瀬財務課長、室谷消防次長） 事務局（桶元勝範企画広報室次長 外6名）
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 市長あいさつ 3 審議会委員委嘱 4 審議会委員紹介 5 市関係職員等紹介 6 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 会長、副会長選出 (2) 諮 問 (3) 総合計画策定の進め方 (4) 氷見市の現況等説明 (5) 意見交換 (6) 事務連絡 7 閉 会
資 料	資料1 氷見市総合計画審議会委員名簿 資料2 氷見市総合計画審議会条例 資料3 氷見市総合計画策定委員会委員名簿 資料4 第8次氷見市総合計画の策定について 資料5 氷見市総合計画審議会部会の設置について（案） 資料6 氷見市の将来人口の見通しについて 資料7 市民意識調査の結果概要 資料8 100の指標で見る氷見市の概況 資料9 現状分析データ集

1 開 会

[事務局]

- ・ 定刻となったので、只今から第1回氷見市総合計画審議会を開催する。
- ・ 審議会の会長が選出されるまでの間、進行役を担当させていただく。

2 市長あいさつ

[市長]

- ・ 皆様には、多忙にもかかわらず、市民生活に支障をきたすような大雪の中を出席いただき、また、日頃から市政各般にわたって尽力いただき、深く感謝申し上げます。
- ・ 平成24年度にスタートする第8次氷見市総合計画の審議会委員をお願いしたところ、快く引き受けていただき、重ねてお礼申し上げます。
- ・ 第7次総合計画では、目指す都市像を「人と自然がなごむ交流都市ひみ」と定め、本市の地域資源・地域特性を生かした、個性的で魅力ある市民主役のまちづくりを目指してきた。
- ・ 計画期間中、単独市政の選択、6校統合をはじめとする学校統合、保育所の民営化、市民病院の公設民営化など、厳しい局面もあったが一方では、田園漁村空間博物館の整備、食文化の発信、長年待ち望まれていた能越自動車道の供用開始や市民病院の移転新築など、先の見えにくい時代背景にもかかわらず、概ね順調に前進させることができたと考えている。
- ・ 食と健康をテーマにした北大町市有地の活性化・利活用については、重点課題として引き続き取り組んでいく。
- ・ 第8次総合計画の策定においては、右肩下がりとも言うべき成熟社会、特に人口減少社会や地域主権、一層厳しさを増す地域間競争への対応が大きな課題になると考えている。当然のことながら、人づくりや雇用の確保にもしっかりと取り組んでいく。
- ・ 幸いなことに氷見市は、先人から受け継いだ歴史や文化、自然環境、人の絆、そして氷見ブリに代表される豊かな海山の幸といった地域資源に恵まれている。
- ・ これらを生かすべく市民の力を結集し、まちづくりの大きな柱となる市民が夢と希望を持てるような計画にしたいと考えている。本日を皮切りに長期間の審

議会の開催となるが、よろしくお願い申し上げます。

3 審議会委員委嘱

(委嘱書を机上配付)

4 審議会委員紹介

(座席順(50音順)に紹介)

5 市関係職員等紹介

(策定委員会委員の紹介)

6 議 事

(1) 会長、副会長選出

[事務局]

- ・氷見市総合計画審議会条例第4条に基づき、本審議会の会長及び副会長各1名を互選により定める必要がある。
- ・事務局案を用意しているが、承認をいただければ、提案したい。
(「異議なし」の声)
- ・事務局案を提案させていただく。会長には、元総理府次長の石出委員を、副会長には自治振興委員連合会長の前田委員を推薦したい。
(「異議なし」の声)
- ・承認をいただいたので、石出会長、前田副会長には、会長席、副会長席へ移動していただき、挨拶をお願いしたい。

[会長]

- ・只今、皆様の承認をいただき、氷見市の総合計画審議会の会長という大役を仰せつかった。
- ・氷見で生まれ育ち、昭和38年に東京へ出た。国家公務員として運輸省や総理府等で35年間奉職し、退官後は民間企業に勤めて本日に至っている。早いもので、氷見を離れてからほぼ半世紀が経った。
- ・ふるさと氷見の総合計画に関することなので一所懸命に取り組んでいきたい。
- ・委員の皆様の絶大なる協力を賜り、精一杯の努力をしてこの職を果たしたい。

[副会長]

- ・市の将来を決める大事な総合計画の審議会副会長という大役であるが、皆様の期待に沿うよう頑張りたい。
- ・激動の時代であり、大変難しい計画策定になると思うが、市民総参加で素晴らしい計画が出来上がることを念願している。皆様の協力をお願いします。

(2) 諮 問

[市長]

- ・氷見市総合計画審議会条例第1条の規定に基づき、第8次氷見市総合計画の策定について諮問する。

(市長から会長に諮問書を手渡した。)

(3) 総合計画策定の進め方

[事務局]

- ・氷見市総合計画審議会条例第5条第1項に基づき、会長に議事進行をお願いしたい。

[会長]

- ・本日の会議には29名の委員の半数以上の委員が出席しており、氷見市総合計画審議会条例第5条第2項の規定を満たしている。本会議が成立することを報告する。
- ・これより議事に入りたい。「総合計画策定の進め方」について、事務局より説明をお願いします。

(事務局より、「資料4 第8次氷見市総合計画の策定について」及び「資料5 氷見市総合計画審議会部会の設置について(案)」の説明)

[会長]

- ・質問等があれば承りたい。
(質問等なし)
- ・事務局提案について、お諮りしたい。
(「異議なし」の声)
- ・提案のとおりとしたい。部会の委員の構成については、後日、事務局と相談の上で進めさせていただく。

(4) 氷見市の現況等説明

[会長]

- ・続いて、事務局より、「氷見市の現況等説明」をお願いする。
(事務局より、「資料6 氷見市の将来人口の見通しについて」、「資料7 市民意識調査の結果概要」、「資料8 100の指標で見る氷見市の概況」、「資料9 現状分析データ集」の説明)

[会長]

- ・質問等があれば承りたい。
(質問等なし)

(5) 意見交換

[会長]

- ・委員の皆様には自由な意見を述べていただきたい。
- ・必要に応じて事務局等からの説明をお願いする。

[委員]

- ・市の人口もだんだんと減り、これから厳しい時代になってくる。人口の落ち込みを少なくしていかなければならない。
- ・数年前の小泉政権の頃に、合併するかしないかという議論もあったが、単独市政を進めていくという結論になった。その後、行財政改革を着実に実行し、氷見市が今日に至っていることを私は評価している。市長には、それが順調に推移していると考えておられるのかどうかを聞きたい。
- ・先日、商工会議所が友好提携している川崎市を訪れた。東京と横浜に挟まれていることもあり、人口が増えている。まちに何か明るい雰囲気があった。
- ・最近、まちを良くしていこうという氷見市民の思いは強いものがあると感じている。県内他市と比較しても、市民のそういう意識は、低くはないものと思っている。

[市長]

- ・平成の大合併の議論の中で、市内の各界各層の皆様と丁寧な議論をさせていただいた。効率性とアイデンティティを比較したところ、「氷見らしさ」を大切にしていこう、行財政改革も覚悟してやっっていこうということで単独市政を決意した。
- ・6校統合や市民病院の公設民営化などを覚悟を持って進めてきた。時間が経過

したことで、その覚悟が薄れてきたものも一部あると感じているが、行革の成果として、ピーク時で350億以上あった市債残高が280億になった。現在実施中の行革プランの最終年度（平成26年度）には、200億程度になる見込みである。職員数もピーク時には1,100人以上居たが、現在は400人代にまでなった。

- ・ 1町19ヶ村がひとつになって58年ということになる。そういう生い立ちもあり、一つひとつの村に固有の歴史や行政需要があるため、学校や保育所の統合にしても丁寧な議論が必要であり、なかなかすぐということにはならなかった。ようやく類似団体と比べても遜色のない持続可能な自治体に生まれ変わる過程にあるものと考えている。
- ・ 人口の減少が急激に進んでおり、大変心配している。人口を増やすことは大変困難な総合政策であるし、人々の価値観の変化もある。しかし、氷見市としては諦めないで、生まれた子どもを丁寧に支援しながら粘り強く育てていかなければならない。カンフル剤のような対策も必要であるが、人口増は、国民負担率を上げることや婚外子を認めること、女性の働き方に理解を示すことなど、国家的に相当な覚悟を持って取り組むが必要があり、一自治体では大変困難な課題である。
- ・ 氷見市の少子高齢化は、富山県の5年先、日本国の15年先を行っている。発想を転換するならば、私たちがこうした課題を解決できたとしたら、少子高齢化対策の先進地となり得るものと考えている。
- ・ 幸い氷見市には1町19ヶ村の人の絆があり、これは有効な手段になるものと考えている。氷見ブリに代表される地域資源も豊富であり、地域を大切にしている人々の価値観もある。計画策定の過程においては、こうしたものを大切にしながら、方向付けをお願いしたい。

[委員]

- ・ 都会では、待機児童が多いと聞いているが、氷見市ではそういう問題はないのか。
- ・ 将来的に人口がかなり減り、高齢者が多くなるという状況であるが、子どもたちを増やすこともなかなか大変であるので、貴重な子どもたちを途中で決して失うことがないように、子育て支援が重要になってくる。一方、増加していく高

齢者は、21ある地区社協の活動を見ていると、非常に団結心があり、横の連携がしっかりしている。そこが、これからの氷見市の高齢者対策を考える上でメリットを生み出す力になるものと考えている。

[市民部長]

- ・今のところ、市内に保育所入所の待機児童はいない。
- ・子どもを決して失うことがないように、親御さんたちと協力しながら、子育て支援はしっかりやっていきたい。

[委員]

- ・市の人口が、25年後には約3.5万人になってしまうという見通しは衝撃的であった。テレビでは、「漁業のまち氷見市、人口5万人」と紹介されているが、人口6万人を目指そう、目指そうと言っていた騒ぎどころではないくらいのごい人口減少が眼前に示された。人口が減少するという事は、それにまつわる物やお金などが減少するという事である。市のマンパワーの減少につながるような施策が今後の10年間で必要になってくると感じている。
- ・人口を増やすこと、減少に歯止めをかけることは困難であるが、マンパワーを減らさないよう、市民一人ひとりのパワーが発揮できるような環境整備や協働の意識を高めていくようなことを計画の中に盛り込んでいくことが必要と考える。

[市長]

- ・たいへん良い意見をいただいた。人口が減少する中、一人ひとりがいくつもの顔を持った活動をすること、一人ひとりの生産性が上がること、一人ひとりの生活空間が豊かになること、そういった発想を計画に盛り込んでいく必要があると考えている。

[委員]

- ・現状分析データの中に、観光客が増えたが宿泊客が増えないという課題が出ていた。それなのに、何故ビジネスホテルが建設されたのか疑問を持っている。
- ・友人を市内観光に連れて行くことがあるが、日帰りですべて観ることができてしまう。市民や企業と行政が協働のまちづくりを展開していくのであれば、もう少し、日帰り客のニーズに合った施設を整備すればどうか。
- ・観光施設を整備すれば、若者の働く場所も増える。可能であれば、そういった

施設を交通の要所であるインターチェンジ周辺に整備してほしい。

[委員]

- ・市長が近年、食に力を入れておられる。私も衣食住のうち、食は観光面での大きな武器になると考える。数年後には新幹線が開通するが、氷見市が通りすがりのまちにならないようにしなければならない。
- ・豊かな食の氷見へ来てくださいという全国PRも大切であるが、受入れ側のソフト、ハードの整備も重要である。
- ・市内には、高齢化等で自分の代で途絶えてしまうという寿司屋などの飲食店も多い。全国から跡継ぎとなる職人等を募集し、空き家情報とリンクさせるような対策も今後必要ではないか。

[委員]

- ・氷見市には、民宿があり、有名な景勝地があり、ひみ穂波に代表される美味しい米、氷見牛、ハトムギなどの農産品があり、寒ブリのような全国ブランドがあり、氷見カレー学会のような飲食店の取組みもあり、地域資源は非常に多いと思う。
- ・市全体として、それらの資源をいかにネットワーク化して提供していくのか。個々の取組みだけでなく、重層的な取組みに広げていくことが大切である。

[委員]

- ・将来人口の推移だけを見ると、市は壊滅的な状況と言える。しかし、高齢者が多くなっても働く場があり、お金を稼ぐことができれば、単なる年齢階層の話ではなくなってくる。
- ・いつも思うことであるが、都市と地方という考え方をすれば、地方で一所懸命育てた子どもが、都会に取られてしまう状況にある。地方に仕事が少ないことがその原因かもしれないが、都会で勉強した学生が仕事さえあれば本当に氷見に戻ってくるのかを調査、把握してみればどうか。
- ・需要というものは人口の多いところで発生するので、地元で生産から消費までを完結するのではなく、氷見に来てくださいというのでもなく、需要の多い都会へ乗り込んでいくことが必要である。農産品の販売については、漁法に例えるなら、待ちの「定置網」ではなく、攻めの「巻き網」というくらいの思いでやっていきたいと考えている。

[市長]

- ・観光や食に関する貴重な意見をいただいた。ブランドの寒ブリが全国的に注目を集めているが、いくら有名でも12月から2月までしか捕れない。このブリを切り口として、ネット販売等で売り込みをかけたり、食を進化させ、6次産業化したりしていかなければならない。
- ・食のことで一番大切にしなければいけないことは、氷見の人自身が美味しいと思うこと、食を大事にするという観点である。食育の充実等を通じて、氷見を「食を大事にしていくまち」にしていくべきではないかと考えている。
- ・美味しいものをサービスも含めて提供し、氷見に来ていただくという総合的な視点が必要である。そのことが市政のあらゆる面に通じていくのではないかと考えている。このことについて、委員の皆様の豊富なアイデアを賜りたい。
- ・観光については、泊食分離や、団体旅行から家族・個人旅行という流れが、宿泊者の減少の一因になっているのではないかと考える。また、こうした多様なニーズに応えるためには、都市型ビジネスホテルも必要となってきた。

[委員]

- ・氷見市には豊富な観光資源のアドバンテージがあると言われている。しかし、伝統的な都市や城下町と比較すると、食事をして1泊していくほどの資源は持っていないのではないかと考えている。
- ・市民意識調査では、中心市街地の活性化のためには、「住む人にも訪問する人にも魅力的と感じられる街並や空間があるまち」にすべきとの意見が最も支持されている。住む人がいきいきと暮らし、観光客にそれを見て楽しんでもらうというまちづくりに取り組んでいくことが、長い目で見れば魚に次ぐ氷見の魅力、観光資源となり得るのではないかと。

[委員]

- ・安全・安心でゆっくりと眠れることが、住み良い町であると考えている。
- ・昨今、大雪やゲリラ豪雨等の異常気象が頻発しているが、人口なら富山県の5パーセント程度の氷見市に、地すべり防止区域や急傾斜地崩壊危険区域等の危険箇所が1,200あり、県内の4分の1程度が集中していると言える。
- ・食や観光のまちづくりの大前提として、安全・安心という切り口、即ち防災について重視した施策を盛り込んだ計画にすべきである。

[会長]

- ・終了予定時刻が近づいてきたので「意見交換」を終了する。意見等については事務局の企画広報室で随時承るので、よろしくお願ひしたい。
- ・事務局から、「事務連絡」をお願ひする。

(6) 事務連絡

[事務局]

- ・次回の会議は、議題を基本構想骨子（案）とし、市議会定例会終了後の3月下旬から4月の開催を予定しており、後日、会長に指名いただいた部会の構成とともに案内する。
- ・委員の皆様の報酬等については、次回より、口座振込とさせていただきたい。事務局より、口座確認又は新規登録の案内をさせていただく。

7 閉 会

[会長]

- ・予定の議題は全て終了した。本日は多忙の中、出席いただき感謝申し上げます。以上で第1回氷見市総合計画審議会を閉会する。